

challengers 19 ~ news latter

平成23年11月7日発行
場所:熊本市子ども文化会館2F 会議室A

バルーンアート・体育あそび！！

熊本市保育園連盟青年部、熊本県保育協会青年部合同の『バルーンアート&体育あそび！！』実践研修①が8月26日に子ども文化会館で開催された。

バルーンアート

まず初めに「めざせ風船マン」と題して、玉名ゆりかご保育園 副園長 島本先生を講師に迎えバルーンの基本について実践をふまえて研修が行われた。

風船の膨らまし方から、結び方を説明され実際に参加者達に実践してもらったが、一般的な風船とは違い、簡単に膨らむものではなかった。参加者の中で初めて挑戦して膨らんだのは1名程度だった。



自分自身もバルーンアート用の風船を膨らますのがこんなにも難しいものであると実をもって学ぶことができた。

幾度となく挑戦してみてもプクッと膨らむことなく結局用意してあったポンプに頼りっぱなしであった。膨らました風船をねじったり曲げたりすることは、一般的な風船ではできないことなので、参加者達も最初のうちは風船をねじる際は顔をそむけ恐る恐るひねる姿が多くみられた。しかし説明を聞きながらねじっていくことでプードルができあがると驚きとできた喜びでテーブルごとに笑顔がでてきた。

花や熊を講師の説明を聞きながら作り上げていくことで、初めは出来上がり後のイメージができないまま言われたとおりにしている印象があったが、時間が経つにつれて作品を頭の中で描きながら来上がる時間も短縮されイメージ通りの作品を作っていくことができていたように思える。

この実践研修を通して、風船は割れるというイメージが強かったと思うが、それを形にすることの楽しさを学んでもらえたのではないかと思う。



私自身も細長い風船が高い表現力をもつということはこの研修を通して強く感じた。バルーンアートは運動会発表会等実践にすぐに役立てることができるためとても有意義な研修で思う。作り上げたものを作品として子ども達に見せるだけでなく、目の前で出来上がっていくことの楽しさをあったと子どもと共有しながらバルーンに取り組むのもまたちがったバルーンの魅力の一つではないかと感じ

この研修を通して、バルーンアートを身近に感じてもらい多くの園で取り入れてもらいたいと思った。それは、子ども達に見えないものが形になっていく楽しさや感動を感じてもらいたいと思ったからである。この研修を通して保育士が子ども達に伝えていくことで、子どもの表現力の助長につながっていくことができたと思う。



編集者:緒方